

第2回加西市未来の学校構想検討委員会

日時 : 令和3年12月20日(月)
14時00分~15時58分
場所 : 加西市市民会館3F小ホール

1. 開会
2. 協議事項 加西市未来の学校構想(素案)について

(事務局資料説明)

会長

事務局から説明いただいた素案の審議については、今回と次の2回に分けて、それぞれ審議していただく。本日は教育理念と中学校について意見を頂戴したい。

A委員

10年ほど前、議会でいろんな小中一貫校の視察に行った。小中一貫校は、中学校があって、そこへ小学校が統合するところが多かった。この教育の基本理念は上手くまとめている。子どもが減れば、統合もやむを得ないと思ったが、小学校区を残すことは非常に大事なことだと思う。地域愛をつくるには、子どもが歩いて地域を見ながら学校へ通うことが大事だ。地域を残す、地域の学校は残す。これは必要なことだと思う。

以前、島根大学の先生に「うちの校区も100人を切り、80人ぐらいになった」という話をした。その先生は、「えっ80人もおられるんですか、うちはもう20人で十分ですよ」と言われ、非常に心強く思った。新温泉町でも、そんな学校がたくさんあると聞いている。

中学校の統合はやむを得ないとは思いますが、校区を残し、その理念と弊害のある面は、バスの送迎と一緒に運動するとか、そんな形のやり方が必要だと思いながら、上手くまとめているという印象だ。我々のような年寄りが持つ考えと、親がどういう考えを持っておられるのか、そのあたりを大事にしながら議論していくべきと思う。

B委員

目指す理念があって、それに対して今の子ども達の現状とか、子どもを取り巻く現状に照らすと、どういう要素がこれから必要なのか、その整理があると再編の在り方にうまく接続すると思う。例えば、A委員が言われた小学校の時代は歩いて通学することが、学びの中とか、地域との関係作りが必要だということも一つあるのかもしれない。その部分の話があるといいと思う。

C委員

この素案を見たときに、もう人口が減ることが前提になっていると思った。中学校の再編という話だが、今、私の子どもは小学生だ。小学校の間は地域に根ざしたところ、小規模の中で育て、さあ次に中学校に行ったときに、いきなり大きな組織に入ってしまうことに対

して、すごく不安を感じる。

北条が一つと泉、善防、加西という分け方も、加西の中で都市部と、田舎に分断されることを意識した。最初の理念の中で、地域の中で育てていく感じが、ちょっと精神的な分断になってしまうと感じた。統廃合しなければならず、この分け方が本当にいいというのであれば、もっとしっかりした人数的なこと、位置的なことも含め、小学校の間は小規模の中で、しっかり子どもたちの根本を育てる、それで中学校はこのようになるという形を示していただかないと、親としてはすごく不安とか反感を感じると思う。この組み方について、もう少し詳しく教えていただければと思う。

会長

小学校では地域に根ざしてこじんまりやって、中学校では今以上に大きな規模になる。そのときの戸惑いをどう考えたらいいのか。それと中学校2校案の組み方は、都市部と田舎部という見方にもなるが、この組み合わせの説明をもう少ししていただきたい。

事務局（教育総務課）

A委員から歩ける距離の話があった。小学校区は地域に一番密接な近い距離にある。学校に関わる大人や地域の方が近い距離にある。地域人材としていろいろ協力、支援していく中でも、密接な関わりを作りやすい。教育の基本理念とあわせて考えていくことが非常にやりやすい。中学校になると範囲がかなり広がる。中学校では専門的なこともあり、地域とのつながりの部分が、小学校に比べると希薄になる、必ずしもではないが距離的にはある。これは一つの意見。こういったところも具体的にコメントをまとめていければと思う。

中学校の話は、都市部と田舎で、決してそういう分け方をしたわけではない。統合ということで、子どもたちの人数で説明しているため、どうしても最初の地域の説明とのつながりが悪いという指摘だと思う。素案には、そこまでの明記はないが、指摘のところはしっかり説明できるよう資料をまとめたい。

D委員

田舎部と町部の話だが、北条中には富田地区と北条地区がある。中学校に入れば、もう北条中で、東小の子、北条小の子、富田小の子はどの子やという区別は全くなく、馴染んでいる。

もう一つは、例えば善防中の賀茂の地区の子だけを北条中に来させるとかも考えられるが、今まで一緒に帰っていた善防中の子が4月1日から、「あんたら北条中や」と言うよりも、このように3つまとめた方が、18頁の学級数からも、2つの中学校、名前も加西北とか加西南とか考える必要はあるが、1校編成よりもよい。それから小学校とは違い、中学校はクラス数によって教科担任の数が決まっている。義務教育は公正で平等であるべきと、私は常に思っているが、やはり人数が少ない。クラス数が少ない学校は免許外の教員が発生して、専門性のある教育が受けられない地区が発生する。これは中学校教育では一番避けたいところだ。

この案を見たときに、まだ細かいところの調整はあるが、原案としては2つの学校案、この内容は割合飲めるところだと感じている。

C委員

教科担任のところ、細かいところまで知らなかったが、教師不足ということで、免許外の先生がどうしても教えられないとか、再編でクラスが増えると、先生が増えて、そして教育がしっかり受けられるということは親にしてはありがたいことだと思うので、必ずしもこの案に親として反対というわけではないが、ただ再編するだけでなく、今まで少人数で育ててきた子どもたちが、小学校の間にしっかりみんなそれぞれの子どもたちが自分というものを持てるように、中学校でも大人数でも適用できるような教育の内容を充実させないといけないのではとD委員の話を聞いてそう感じた。

会長

小中接続は大きな教育のテーマで、現状いろんな試みもされているところだが、改めて大規模の中学校になったときには、そこをさらに検討する必要があるという意見だ。

それから、先ほどの地域のことについてはいろんな定義がある。町内や小学校区、中学校区であったり、加西市が一つの地域という見方もできる。発達段階に応じて、地域をどのように考えていくかということも含め、また次回提案していただければと思う。

E委員

中学の再編計画について、20頁の地図を見て、愕然^{がくぜん}とした。北条校区がピンクの色で、統合中学校区は白。奇妙な地図ができあがっている。これを変だと思わないだろうか。教育委員会の方。統合中学校の校区の面積は約130km²。130km²というと神戸市西区あるいは加古川市とほぼ同じ。加古川市の面積で中学校が1つ。神戸市西区のあの広大なところで中学が1つ。西区には田舎もあり、都会もあり、山もある。130km²で1つしか中学校がない。人数で合わせていくとこんなことになるのかと思った。

それと4頁の「心のふるさと」のところ。子どもも含めて全ての人間、田舎の人間であっても大都会の人間であっても、心のふるさと作りは必要だと思うが、これでどうやって心のふるさと作りができるのかなと疑問に思う。泉地区、加西地区、善防地区かなり違う。地域性も。それを人数だけに合わせていくことに、すごく疑問を感じる。

それから、もう一つは小中一貫校みたいなやり方もあると思う。なぜ小さい学校だとだめなのか。小さい学校イコールだめっていうような議論が主流になりつつあるように思う。小さな学校がだめということはないはず。日本の学校はちょっと大きすぎるって言われている。

海外の学校、私ちょっと知人に聞いたら、オランダあたりでは小学校の規模で100人以下だ。大都会のロッテルダムとかアムステルダムは別だが、地方だと、小さな学校、いわゆる村の学校、町の学校みたいなのが、ずっと続いていて全部合わせて100人以内である。そして地域の人に密着し、親しまれて、昔から運営されている。土地の文化の中心にもなっている。

教育だけでなく、文化とか芸術の中心にもなっていて、学校の存在っていうのは、ここにあるかないかで、すごく違う。

大きい学校のいい面もあるが、今の少子化に合わせて小さい学校もいいのではないかな。もっと言えば、単学級はだめだと書いてあるが、単学級って何でだめなのか。何も悪くないの

ではないのかと思う。この検討委員会は次の世代に何を残せるかを話し合う大事な会だと思う。実際に現実に受け止めるのは、子どもたち、また、その子どもたちの子どもたちなので、例えば 30 年経って、こんな校区を残して果たしてよいものか。30 年後の若い人たちはどう思うかと、そういう視点もこの会議では必要ではないか。

会長

小中両方に関わる話だ。小学校は、素案では残すという話。中学校については2つにするという、そこがなぜ4校の小さいままではだめなのかという意見だった。

D委員からいくつか課題について説明があった。一番大きいのは免許外で指導する教員が出てくること。プロの免許を持った先生に子どもが学べないという状況はよろしくないということであった。あと、今回は部活の話も出ていた。生徒が少ないがために、部活の種類が減って、かつてのような十分な選択の機会がないことも生じているということだ。今の中学校の4校を残してはという意見だったが、他の委員はどうか。

F委員

中学校において、専門性が高い先生の授業を受けられないという現実はある。例えば中学校の学級数が減っていくと専門の音楽の先生とかが置けなくなる。まず、主要教科以外で影響が出る。統廃合は仕方がないと若干思うが、考え方を考えることができればと思う。私は、A先生は1つの学校に毎日必ずいるということが当たり前になっている。しかし、この先生は、今日はA校、次日はB校というように移動することもできる。教師、学校側が工夫して何とかできる方法を考えることも大事だということがまず1点。

それと、部活動は文科省では、地域活動へ移行することが方針として出ている。先生方は本当に親身に休みもなく指導し、働き方改革も含めて、部活動を考えなきゃいけない時期にきている。部活動は令和5年がターニングポイントになって、地域活動へ移行していく。今の感覚で部活動の10年後を考えると、これはちょっとずれる。中学校の再編を考えたときのキーワードが部活動というのはちょっとナンセンスだと思う。

子どもに押し付けるのではないやり方も考えないと、10年後20年後、E委員が言うように、これでよかったんだろうかということが起きると思う。

会長

F委員が、中学校の統廃合が仕方ないと思うところの部分、もうちょっと言葉を足してもらいたい。

F委員

教育や行政に関わってきたので、人数というキーワードが出てきたときに仕方がないとは思いますが、そこには、できるだけ子どもにいろんな課題を押し付けられない方法を考えて、それでやらないといけないだろうと思っている。

教科担任のことは、本当に大きな問題だとよく分かるが、先ほど言ったとおり、子どもにばかり、その問題や解決策を押し付けていくよりも、大人が、教師が、学校がもう少し、努力してみることも一つあっていいのではと思う。

会長

大人が努力してみる方法の一つが、専門外の先生ができるだけ減らないように、複数の学校を回る教員を置くという提案である。

C委員

先生がそうやって移動できれば、何人かの先生が確保できるということだが、音楽の先生がそうやっていろんな所へ行くとか、そういうことが実際に今の制度の中でできるのか。

事務局（学校教育課）

実は、我々も再三、県の教育委員会に言っている。中学校の免許外の先生は数年前から発生している。今は解消しているが、例えば善防中の先生を、木曜日と火曜日は加西中に行けるよう兼務を認めてほしいと、県教委にずっと言っているが、認められていない。

先週も県教委に要請してきたところだ。教職員の定数というものが決まっており、県の予算に関係してくるが、認められている地域もある。加西市は認められていない。今後解決することもあるかもしれないが、令和4年度時点の可能性は今のところない。

部活動も10年先を見据えて検討しないといけないという話だが、どのような形に作っていくかをこの検討委員会と共に考えるのは必要だと思う。現実の中で国や県の動向を踏まえて、加西市として部活動もどうあるべきか考えていく必要がある。

G委員

今回は中学校についてということだが、地域に根差す学校づくりという話が出ている中で、ぜひとも小学校の再編についても、私の考えを述べたい。私は宇仁小学校、西在田小学校で計17年間教員をやってきた。その小規模校の良さや、地域の中で育てることが、いかに大切であるかも十分承知した上で、話をさせてほしい。

その当時の学校は単学級といえ、人数で言うと30人以上であったり、また30人以下であったとしても20人以上の学級だった。ところが、最近の単学級というのは、さらに小さくなって20人以下の学級が増えて、さらには10人を割る。しかも、その10人を割った男女比が男子だけとか、いびつな学級編制が最近見られるようになってきた。

これから先、多様な考え方に触れながら、また多様な個性に触れる中で、豊かな人間関係を育むことが必要だと言われている時代に、この単学級の少人数では、物理的に大変難しくなっている。1年生から6年生までの間、10人であれば、ずっと10人で過ごす。今の学校の在り方や授業の在り方も変えてしまうくらいの大変革を起こさない限り、この人間関係作りというのは難しいままで、私はこのままであれば統合は必要不可欠になってくると思う。

地域に根差した学校、特色ある学校作りを進めていくことになると、これは誰がそれをするのか。校長は確かに方針を職員に伝えることはできる。ところが、実際にその学校を動かしていくのは、直接子どもたちを指導する教職員だ。30年前、加西市にはたくさんの教職員がいた。教職員にはたくさんの個性があった。その個性が混じり合い、それぞれの良さや

個性を發揮し、交流しながら、それぞれにいいものを残していった。リーダーシップをとる者もいた。

今は職員の絶対人数が少なくなった。少人数の学校で、例え1人であっても、みんなを引っ張っていきだけの力をもった教師、リーダーシップをとれる教師を、その当時と同じようには育てられない。個性がぶつかり合わないような少人数の教職員の集団になると、その地域を生かした特色ある学校作りが大変難しくなる。小学校の再編も、中学校の再編とゴールを同じとは言わないが、いつまでに目途を立ててといったように考えていただければありがたい。これは、学校の校長会のほぼ総意である。

学園構想では各中学校区に小学校を結びつけている。泉中学校区の泉学園と、北条中学校区の北条学園では、全く違う動きをしないといけない。小さい学校同士、単学級同士が動くときは連携が組みやすいかもしれない。北条小学校と北条東小学校と富田小学校が同時にすると、1学年だけでも最大で6クラスになる。その6クラスが合同で授業ができるか。共同で進めていくというのは、それだけで事務的な時間は相当大きくなってしまう。学園構想もこの4つで内容が大きく変わってくる。やりにくいところもあれば、やりやすいところもあると考える。

これに縛られると教職員は余計にしんどい目にあうのではと危惧する。16頁の共同授業、共同利用というのは本当に難しい。ほどほどにできるかもしれないが、これを一斉に強く推進するとなれば相当難しいと考える。次回に小学校のことを考えるとすれば、私の話もちよっと頭に入れて話し合っただけだとありがたい。

会長

小学校の学園構想が、まだイメージがしにくいところもあり、小学校の校長の先生方の感覚としても、そんな簡単に学園構想ができるのかという懸念がある。

G委員

学園構想となったとき、一つの理念、学校教育目標も含め、4人の校長が存在することが出てくる。職員も同じ考え方に沿って、同じように進められるかということなかなか難しい。現実的に考えて、強く縛らないで、緩い縛りであればまだできるかもしれない。

会長

また次回に具体的な提案をいただきたい。

A委員

この場はいろんな意見を出し合って、最終的にまとめ上げることになると思うが、いつまでに結論を出すのか。

事務局（教育総務課長）

この検討委員会で最終的には9月に答申を市長に提出する。その答申に委員の意見をまとめる。それを目標としている。

A委員

来年9月までなら大分ある。いろんな人の意見を聞き、意見を交わし合い、よりよい方向を決めていく必要がある。私自身、学校は2クラスいるという考えをずっと前から持っていた。いじめられる子はずっといじめられる。私はいじめられる方やったからよく気持ちが分かる。

最低2クラスの規模は必要という思いだが、地域の方から見れば、子どもが歩いて学校へ行く。近くの景色、人を見ながら行っている。こういう郷土愛を育むものの一つは小学校だ。

どうしたら残せるか。地域のことも考えながら、今から議論し、よい方法を見出せればと思う。今のところ、新しい中学校はどこにという議論は、まだ早いかなと思う。

会長 まだ発言のない委員に伺いたい。

H委員

小学校4年生ぐらいの子どもたちは、自由学習や自分で選んで学習方法を見つける年齢に達していると思う。私の子どもは地元の富田小ではなかったが、北条中学校へ行かせた。最初、違和感があったと思うが、学校の先生方に伺うと、すごく中立的な意見を持ってクラスの中にいるという話を聞いた。統合は本人には苦にはなってなかったと思う。その子ども、子どもで、ここには自分の夢が実現しないとなれば、たぶん他の私立の中学校などへ行くことを親も勧めると思う。

地元の教育が充実したものを作ってあげることが大切だ。地域愛も大切だが、地域と自分の住んでいるところと、学校とはまた必ずしもイコールではない。これから先へ向かって、どういう形で自分が学んでいくか、子どもの意思も考えていかないと、これからはちょっと大変な時代が来る。高校、大学とよその土地へ行く人も出てくる。そのときに私達はどれだけのことを子どもに社会面、学習面、生活面で教えてやれるか、親として、近くに住む者として、それを考えていかないといけない。

それと統合中学校の地理の件、やはり北条の町中を通るということは、自転車にしても、何にしてもいろんな危険を考える。北条が20頁の図面でこうなっているが、私たち北条高校に通った者は、昔の六差路の辺りにあって安全であるとわかるので、地理的にはここがいいかと思う。

会長

今日のところは中学校を、次回に小学校を中心に意見をいただく。その後、アンケートを取り、保護者の方々、いろんなところの意見を聞きながら、まとめていきたい。

I委員

ここで見せてもらっている教育理念は、そもそも、どこかに出ているものなのか。それとも教育委員とか、ごく一部の人だけが共有するものなのか。

会長 加西市の教育委員会が今後5年間の教育振興基本計画でまとめている。

I 委員 中長期ビジョンみたいな形で。

会長 各学校の先生にも共有され、保護者にも理解いただいているところ。

I 委員

ホームページとかで、出しているのであれば、この 7、8 頁の説明文だが、Society5.0 とか加西 S T E A M とかは一般の方には聞き慣れない。一般の方が見るのであれば、もう少しわかりやすいものにした方がいいと思う。加西 S T E A M というのは 3C の次世代型人材を育成となっている。7 頁の図でも 3C のことについて挑戦する、探究する、疑問に思う、実行する、これが S T E A M のように見えるので、この説明の部分が適切なかどうか。

あと各委員の話を伺う中で思ったが、小学校はやはり地域においておく必要があると思う。統合によって過疎地のさらなる過疎化につながることもあるので、やはり小学校は人数が減ったとしても、この素案 11 校、この方がいいのではと思う。

中学校の再編に関しては、私は教育というものに疎い部分があるので、違う視点から言わせてもらうが、これから先、4 つの中学校を維持していくことは、設備的な投資、それから建替えとか、これからどんどん出てくると思う。建物も古くなってくる。現実的にみたところ、一つポンと建ててしまう方が、ランニングコスト、言い方は悪いかもしれないが合理的ではないかと。やはり子どもも減ってきているということで、統合していくというのは、仕方ないことなのかなと思いつつ話を聞いていた。

次回に金銭的な部分、例えば建て替えたときの費用とか、それからスクールバスのランニングコスト、そういう部分も数字として出せば、今とこれからとの比較がしやすいと思う。

あとは実際に、この会議が現実的なところを見て、建設的な意見で進めていくのか、それともそうじゃなくて理想を追い求めるのか、少しその辺ははっきりさせた方がいいと思う。

会長

理想と現実の両方で。経営面、財政面のことも含めて議論していく必要があると思う。

J 委員

中学校の標準的な規模という考えに基づけば、どの中学校も条件を満たしていないという現状に対して、どうするんだというところは大きな課題だ。その状況の中で、今回の案が示されたと理解した。何らかの形で統合、標準的な規模を守るための策は講じる必要がある。

また一方で、必ずしも統合ありきではないという考えもある。それについては課題を解決していくことで現状の中学校を維持する。その双方の考えがある中で、事務局はこのように示したと思う。各委員の意見を踏まえて、再考していく場が、本日を含めこれから続くと思うので、私もそういった形で意見を言えればと思う。

あと、小学校の場合は、適正規模、標準規模ではなくて、課題を解決する術をもって 11 校存続という方針が示されている。北条小、北条東小については標準的規模にあるにも関わらず、学園構想にも取り組むと示されているが、G 委員の指摘のとおり、適正な規模にある小学校において学園構想で連携していくことは非常に大きな負担になることが懸念される。国が示す適正規模にあるにも関わらず、連携をする必要性はどうか、少し説明が必要だ

と考える。相応の規模にあるクラス同士が連携することに伴う負担は非常に大きい。子どもたちのみならず、教員にもその負担がかかっていく。次回に小学校の話をするのであれば、そこをもう少し説明していただきたい。

K委員

私は連合PTA会長を平成20年にしており、そのときに統廃合案が出た。統廃合反対ということで、行政の立場でありながら反対した。当時の小学校の校長先生方は、全て統廃合は反対と私は聞いていた。今日、G委員の意見を聞いて、びっくりした。今、そういう状況なのかなと驚いた。

事務局案として中学校の統合案が出ているが、もう少し現場の意見も含めて出してくればよかったかなと思うのと、B委員の指摘のとおり、素案の理念の部分の8頁までと、それから後のつながりがなく、いきなり小中学校の再編に入っているので、この流れをもうちょっとスムーズにつながるようにして、I委員が言われた学校の耐震化、大規模改修とかのコスト面も含めた資料もあわせて、事務局案を出してくるのがよかったかなと感じた。

今後のスケジュールだが、第7回までで9月にはもう答申をレビューする形になっている。回数が少ないこともあり、今回、素案を出して次にということだが、場合によってはもう少し回数を増やしても議論するのがいいかなというのが感想だ。

L委員

ちょっと遡るが、今から40年ほど前から地域の要望もあり、各校区に幼稚園ができた。その幼稚園も子どもたちが減ってきて、休園という言葉が出てきた。そのとき協同的な活動ができるには何人くらいの人数が適当かという基準が検討された。だいたい15名くらいということで、15人いたら存続、それ以下なら休園措置が取られるようになった過去がある。

小学校には少人数の学校もある。1学級1桁の人数の学年もある。その中で子どもたちが共同的な活動がどれくらいできるだろうか、何でも順位だてられるようなことはないだろうか、いろんな人と関わる中で自分が発揮できるだろうか、それぞれの良さが発揮できるだろうか、いろんなことが心配になる。

少人数で来ている子どもたちが大きくなって、小学校を卒業し、中学校が加西市2校になるとするならば、今まで少人数のところでは自信を持って、自分を発揮できていた子どもが、大きな環境の変化によって、本当に発揮できるのだろうかかと心配もある。子どもたちを信用してないわけではないが。大人である我々は、こうやって討議できるが、当事者の子どもたちは「自分が中学校行くとときに中学校が少なくなって、どこかの中学校と一緒になるのなら、あなたはどうですか」みたいなことを聞いたことがあるのかなと思いながら、今日参加した。

それと、この20頁。加西中学校、善防中学校、泉中学校の3校が1校になって、どこかにできるということだが、それぞれの送迎場所まで、みんな自転車で行って、地域の人たちに「おはよう」と挨拶したり、声をかけられ、見守られながら、登下校ができるのかなと思う。

個人的な意見で申し訳ないが、私は乗り物酔いがすごくて、毎日バスで通うとなると私は行けないと思う。

E委員も言われたが、中学校を北条中学校1校とあとの3校を1校にしたときの、その距離数であるとか、この面積に対して1校でいいのかというところは、本当に疑問を持つところだ。

M委員

私の子どもは、今、こども園なので、まだ小学校、中学校を経験していない。中学校のことはまだ考えにくいですが、現状で部活動ができなくなるとか、地域活動の方向へいくと言われたが、そのようになるのか。

F委員

文科省が決定している。教育委員会の方は知っていると思うが、基本的には働き方改革だ。先生の負担がものすごく大きいため、部活動について地域活動へ移行することは、令和5年がターニングポイントになっており、ホームページにも出ている。

普通の学校でやっている部活動と土日の地域活動というときに、先生は望めば地域活動の方に参加してもよいように移行するそう。何年度に完全移行になるかは分からないが、今までのように学校対応とかいう感覚は、どんどん抜けていくと思う。

D委員 今、そう言われているが、だいぶん時間がかかっている。

F委員 と思う。中体連の問題もある。

D委員

令和5年からになっているが、今の段階では受け皿がない。近隣市町で今、先行してやっているところがあるが、お手上げ状態だと聞く。

F委員

私の夫も中学校でバスケットを指導している。「あんたは何の教科や」と言えば、「バスケット科や」というぐらいバスケットをずっとやっていた。土日は家にいない。

近くの市だが、地域へ移行するときに地域指導者が入った事例がある。バスケットで、企業でバリバリやっていた人たちがリーダー、指導者で入ってきた。そこには学校教育という部活動と、いわゆるバスケットを強くするというので、ちょっと微妙に違いがあった。それでいろいろなことがあったが、結局はそのままだった。

私らが今まで当たり前だと、私もそうだが、昭和のテンプレートを持ってるので、その当たり前とやった感覚で、部活動を考えてはいけなし、10年後、20年後、30年後って考えたら、学校教育もそうだと思う。

子どもの感覚、子どもってどう思っているのだろうかとか、今まで聞いたことないけれど、それも聞かないといけないだろう。部活動については、文科省が方針を出している。ホームページを見てもらえれば令和5年も出ている。

M委員

今、子どもが年長（5歳児クラス）だが、年少（3歳児クラス）のときに人数の少ない宇仁幼稚園に行っていた。その翌年、泉よつばこども園に統合された。子どもに様子を聞くと、宇仁幼稚園の方が良かったと思うと思ったが、子どもは人数が多い方が楽しいと言っている。親と子どもの考え方も違うので、今こうやっっているいろいろな意見がある中で、自分でもちょっと悩んでいるところだ。

N委員

ここへ来るときに、ちょっと不安を抱いていて、合併ありきなのかなって思いながら、各委員の意見を聞いて、頭がぐちゃぐちゃになって何も決まっていな。本当に合併がいいのか、それともそのまま残すのがいいのか、皆さんそれぞれ意見があると思う。どうしたらいいだろう。本当に。

子どもたちのことについて意見が出ていた。標準的な規模ありきみたいになっているが、そこが本当になぜいいのかっていうところ、もう少し噛み砕いた内容が出てこないとな統合する意味がちょっと、いまひとつ私らとしては分かりにくい。何か見える化してもらえれば。

統合するとこんなメリット、デメリットがあるというところ、小規模の学校のメリット、デメリットをもう少しクローズアップして、その辺を次回の検討の材料にした方がよい。

今日の素案では、中学校は統合ありの話だったので、構想的には私自身も何か頭に描いたビジョンがあったが、今日お伝えはやめて、次回にしていきたい。

会長

学級内の子ども数だが、小学校で言うと10人を切るという状況や複式になるかどうかというところ、児童生徒の人数の条件となるような資料を作るといいと思う。

O委員

このテーマについて区長会で話をする機会はないので、ここで話すことは個人的な意見ということで了解いただきたい。私は実は賀茂小学校の評議委員をしている。この前、オープンスクールで校長先生と一緒に学校を見学し、すごく感動を覚えながら帰ってきた。少人数学級のよさは絶対あると思うが、これだけ赤ちゃんが生まれる数が少なくなる中で、施設の再編というのは、私は避けて通れない状況に来ていると思う。

今回の資料で学校施設の建築年度とか、改修履歴を付けてもらったが、学校施設はほとんどが老朽化して、中には60年近く経つ校舎もある。新しい学校もあり、施設面において結構不平等感が出てくると思う。今後、毎年いたるところの学校が大規模改修とか、長寿命化工事が必要になってくる。これも行政の費用負担だとすれば大変な状況だ。中学校の再編案が出されたが、一つのたたき台として、何かしかの再編は必要だと思う。これがいいか悪いか別として。

小学校は学園構想だが、小学校の再編についても、今は11校存続で行けたとしても、こういう状況にきたら、こことここはこう再編するとか、何かそういうことも、10年後、すぐに新たな構想を考えなくてはいけない状況がくると思うので、それも含めて考えていく必要があると思った。いずれにしても、こういう状況の中で、未来の学校を考えると、もう避けて通れない状況にきているということを、個人的な意見として述べたい。

会長

小学校、今回の案では11校存続しか出てないが、そのまま減り続けたときに、どうするのかその先も考えてほしいという意見。次回、その辺りも出していただければと思う。

B委員

ちょっと難しいなと思ったのが、学校の姿と地域の姿が、ちょっと分断して議論されているというところ。部活動の地域移行の話もそうだが、学校と地域の関係が今のままであるかどうか、あるいは一番の焦点としては子どもの学びの姿がどうなっていくのかということ。今の姿とまたどんどん変わっていくものだと思うので、そこに地域との関係とかICTの活用とか含めたときに、現時点の現状の学校の姿、地域の姿のままで議論している部分があると思った。その未来視点というか10年後の学びを考えたときに、例えば教職員の仕事はどう変わっているのか、今時間をかけていることに、そのまま時間をかけるのか、あるいは中には効率化するところとか、あるいはもっと時間をかけるところが出てくるのかということも、現時点とは変わっていくと思う。その時点を10年後に置くなり、その辺のイメージを、私も含めて、もう少し接合できるといいなと思う。

7頁、8頁のところ、これからの学びの姿だと思っていて、そうすると国とか県の支援体制の方がちょっとそれに追いついてない部分もあると感じながら皆さんの議論を聞いていた。

ここに書いてあるように子どもたち一人一人が問いを立てていくとか、教科が横断していく、子どもたち自身の中で、教科の学びがつながっていくという学びの姿を考えると、必ずしも現時点での学校を取り巻く現状を前提にしすぎると、ちょっと議論がずれてしまうのではないかと思う。

私が活動している北海道の浦幌町も人口4,500人の町で、2校しか小中それぞれ残っていない。大きい方でも1学年20人から30人。小さい方はもう本当に数人の学校。その大きい方の中3が、今年、いわゆるマイプロジェクトの形で地域活性化プロジェクトを実施した。20人であっても、ここに書いてあるように、それぞれが試行錯誤しながら、子どもたちが個々に学びを探究している。

1学年20人でも今までの想定と違ってきて、教員の支え方も変わるし、地域の関わり方も変わるなっているのは、私も今年の中3の学びを通じて感じている。

学校と地域の関係も変わっていく。勝手には変わらないので、E委員からもあったように、その10年後の地域の姿をどう描くかということ、その中に学校も位置付けられているので、そのあたりの議論がもう少しできるといいと思った。

あと、浦幌の場合は、より小さい学校の方は、町費で教員を補充している。そういう意味では、国とか都道府県の支援についての議論もある。

部活動は、浦幌の場合は、今私が所属している一般社団法人は役場と一緒に議論し、トライアルを始めている。文科省が示す令和5年度を見据えて、どうやって地域で環境を作っていくか、私たちも動き始めたところだ。

あと、もう一つ、浦幌の場合、小中学校ともスクールバスでの移動時間は長い。大人にとっても長いけど、子どもにとったらもっと長く感じるかもしれない。スクールバスの運転士の一人が、社会教育委員をしている熱心な方で、その方の話を聞くと、スクールバスの中で子どもたちと対話をしているそうだ。移動する子どもたちにとっての居場所になっていると思い、そこでサポートできることもあると感じた。

先ほどF委員が言われたみたいに、単に子どもたちに押し付けるっていう考え方でないアプローチが必要であるし、発想を変えると、いろんな可能性が、環境が限られてる中でも、できるんじゃないかなと思う。私もまだ何ができるっていうわけではないが、子どもたちの豊かな環境を作っていくことを考えると、いろんな発想がありえるかなと、そんなことを感じているところだ。

事務局（教育長）

様々なご意見があることは分かりながら、今こういう形で素案を出した。私自身も、今の現状に立って発言することが多い。しかし、冷静に考えると、我々が育てている子が、あと10年、20年経って社会へ出たときに、どういう教育を受けてきたのかということが重要だ。それを見据えて、腹を括って教育をしないといけないと思う。現実には先生方の意見も聞き、子どもの意見も聞き、もちろんいろいろ地域の方の意見も聞かないといけないが、もし、学校がなくなって10年経ち、20年経ったとき、その地域がどうなっているかということも、具体的にリアルにイメージしないと、無責任な決定になってしまう。これからの何カ月間、前向きに具体的に未来を見つめながら、自分たちは本当にこのまま従来の初期設定のまま考えていいのかと、もう一度謙虚に考え直して話し合えたらいいなと切望している。

会長

これから9月までの9か月しかないが、この委員会の回数とか、間隔とかを検討しながら進めていきたい。計画案について事務局にお願いする部分と、あとは我々委員の中でこういうアイデアで再編、あるいは維持も含めて、どんどん案を出していただければとも思う。今後ともよろしくお願ひしたい。本日の委員会の予定はここまで。会議次第の3、その他については事務局にお願いする。

3. その他 特になし

4. 閉会

次回 令和4年2月7日（月）午後2時 市民会館小ホール